

6月2日 ヨハネによる福音書3章1～15節

「主を信じるために」

私たちは、クリスチャンであるという意味で、イエス様を頭とした大きな教会の一員であります。だからこそ、個々の教会の課題や目標とは別に、奥羽教区の方針のように、「共に担うべき方針」があります。それが、今日の説教題にも記してあります「主を信じる」、私たち自身もイエス様のことを信じ、そして誰かにイエス様のことを「信じてもらう」という事です。だからこそ、新しく定められた「主と共に沖へ漕ぎ出そう」という奥羽教区の方針は、イエス様のことを知ってもらい、信じてもらうために、私たちも具体的な行動を起こそう。その行動には、イエス様が共にいて私たちのことを支えてくれる、だから勇気をもって一步を踏み出そう。そのように私たちを勇気付ける思いが込められているのです。

今日の個所では、ニコデモというファリサイ派の人物がイエス様と問答をしている場面が記されています。彼はユダヤ人たちの中でも指導者の立場にいる人であり、律法を守ることを人々に教える側の立場でありました。だからこそ彼は、その知識によってイエス様のことを信じるのが難しくなっていました。

ここでイエス様が教えたのは、水と霊という洗礼によって新たに生まれ直すこと、これまでの人生を一度終えて、イエス様を主とした新しい人生を始めることが必要だということでありました。それを理解できないニコデモは、今日の個所の続き、16節の有名な言葉へと導かれます。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」その言葉に、ニコデモは衝撃を受けたことでしょう。イエス様を信じることによって与えられる恵みの大きさ、イエス様を宣べ伝えることによって、自分が神様のためになることが出来る、その「宣教の広がり」を、ニコデモはイエス様から教えられたのです。

この宣教というものについて、パウロはローマの信徒への手紙10章において、「信仰による義」をどう受け止めるべきかということの主眼において書き綴っています。「心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われる」とパウロが語るように、私たちは内面における信仰と、信仰の表明としての行動が求められているのです。

それは何故なのか、なぜ私たちが行動に移す必要があるのか。一人で聖書を読んで、一人で賛美歌を歌い祈るのも信仰ではないか、と思う気持ちも理解できます。しかし、私たちもまた、誰かの行動によって、導きによってこの教会へと導かれました。誰かが私たちに救われてほしいと思っていたからこそ、今私たちはイエス様と共に生きる実感を得ることが出来ているのです。「宣べ伝える人がいなければ、知ることも信じることも出来ない。その人は、イエス様を呼び求めることが出来なくなってしまう」と、悲痛な叫びのようにパウロは語ります。だからこそ、私たち一人一人が、あなたが、イエス様によって招かれて、信仰を告白した一人一人として、愛する人へ神様のことを、イエス様のことを伝えるのです。それが私たちの掲げる、「沖へと漕ぎ出す」という大きな業なのだと思います。

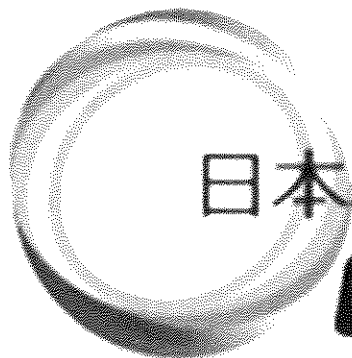
私たちは、誰かにイエス様のことを、神様のことを教えることによって、「善く生きる」ことがどれほど素晴らしいのかを教えることによって、その人を心の底から愛することが出来ます。その愛の業を、種によって強められながら、これからも行って生きましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書 3章 1～15 節

- ・1:さて、ファリサイ派の一人で、ニコデモと言う人がいた。ユダヤ人たちの指導者であった。この人が、夜イエスのもとに来て言った。「先生、私どもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、誰も行うことはできないからです。」イエスは答えて言われた。「よくよく言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」ニコデモは言った。「年を取った者が、どうして生まれることができますでしょう。もう一度、母の胎に入って生まれることができるのでしょうか。」イエスはお答えになった。「よくよく言うておく。誰でも水と霊とから生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。『あなたがたは新たに生まれなければならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」
- ・9:するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか」と言った。イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。よくよく言うておく。私たちは知っていることを語り、見たことを証ししているのに、あなたがたは私たちの証しを受け入れない。私が地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者は誰もいない。そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。」

奥羽教区ホームページロゴ

新しい長期宣教基本方針へと変わりました。



日本基督教団奥羽教区

**Ouw Diocese**

主と共に沖へ漕ぎ出そう Luke 5:4